

# 満水池 (まんすいいけ)

 <p>位置図</p>	<p>諸元</p> <table><tr><td>貯水量</td><td>189.5 千<math>m^3</math></td></tr><tr><td>満水面積</td><td>6.5 ha</td></tr><tr><td>受益面積</td><td>68 ha</td></tr><tr><td>堤高</td><td>6.7 m</td></tr><tr><td>堤長</td><td>481 m</td></tr></table>	貯水量	189.5 千 $m^3$	満水面積	6.5 ha	受益面積	68 ha	堤高	6.7 m	堤長	481 m
	貯水量	189.5 千 $m^3$									
満水面積	6.5 ha										
受益面積	68 ha										
堤高	6.7 m										
堤長	481 m										

満水池は三豊市高瀬町から三野町に通ずる県道脇にあります。老朽化に伴い、明治・大正・昭和と幾度も改修が行われてきましたが、平成14年度(2002年度)に国営総合農地防災事業により全面改修されました。また、平成9年～平成10年(1997年～1998年)に県営ふるさと水と土ふれあい事業により渚部に遊歩道が整備されており、春には桜の名所の満水公園としても親しまれています。

ため池創築の年代は不明ですが、弘法大師が七宝山の岩屋で修業された折に、当時小池であったこの池を大師自身のかいな(腕)で錫杖しやくじょうを使って増築されたという伝説から、古くは「腕(カイナ)池」と呼ばれていました。現在の規模の満水池となったのは万治元年(1658年)、庄屋吉助の命がけの願いを丸亀藩普請奉行が聞き入れ、大きく拡張されたと『西讃府志』に記されています。その後、享保3年(1718年)に池底を浚渫しゅんせつして貯水量を増やし、池名も「カイナ池」から「満水池」に改称されました。

満水池の受益地となる三豊市高瀬町の土地は、地味肥沃な低湿地で古代から稲作が発達してきました。しかし水源となる山が浅く、川らしい川もないことから、用水確保には苦慮する土地柄でした。そこで人々は強固な水利組合・水利土工組合を組織し、長年、紛争を収めてきました。そのような中、昭和51年(1976年)の香川用水の通水に伴い、香川用水西部幹線高瀬支線の末端の調整池となったことで、水不足は抜本的に解消されました。県道沿いに建つ「香川用水導入記念碑」には、「多年干害に苦しめられたこの地区も毎年のように豊穰の秋を迎えることができることになりました」と人々の喜びの声が刻まれています。



満水池



香川用水導入記念碑

※左写真：国営総合農地防災事業香川地区事業誌より